



Gyoshu NEWS

～広報部～

July 18, 2018

PUBLISHED BY 広報部

特集：梅雨明け！

任期満了、第一期生徒会 最後の生徒会日記

去年の今頃、暁秀初の試みとなる選挙による生徒会が発足され、生徒会メンバーは暁秀をより良い学校にするため、活動してきた。もうすぐ第一期生徒会が解散となるわけだが、その前に、これまで生徒会が行ってきた活動とそれぞれ任期を終えての感想などをインタビューした。

●生徒会活動内容まとめ

□ 委員会整備

→各委員会の活動内容を各委員長を通して確認し、改善をする。

□ テニスコートライト設置

→テニス部が夜間活動するためにライトの交渉、設置。
→部活動の環境整備

□ 体育館使用時間整備

→体育館使用時間をずらし、より長い時間、広いスペースで部活動ができるよう工夫。

□ 奉仕活動

→沼津市社会福祉協議会への募金活動
→沼津市の福祉に貢献。募金活動時のご協力ありがとうございました。
→文化祭エンディング時のスピーチ

□ 暁秀祭、イベントの充実

→暁秀祭でのエンディングの設置

□ 部活動新設

→時間の都合上、話し合いのみ

●生徒会メンバーインタビュー

生徒会長：花井 怜美

生徒会長として至らない点も多くありましたが、たくさん生徒会活動に協力していただき、ありがとうございました。暁秀をより良くしたい！という思いがこの先もずっと、生徒会を筆頭に、続いて欲しいと願っています。

副会長：岡村 将希

生徒会副会長としてみなさんの前に出ることは多くはありませんでしたが、募金などの様々な活動を通して自分にとって良い経験であり、暁秀生のポテンシャルの高さを感じた一年でした。今後もそれぞれの個性を活かして暁秀を作ってください。

高校会計：小島 麻由香

これといった会計の仕事はしませんでした。暁秀祭や募金活動での積極的な協力、とても嬉しかったです！みなさんの一生に一回しかないこの学校生活を次の生徒会メンバー中心に、これからも作り上げていって欲しいと思います。ありがとうございました。

高校書記：柏木 結大

公立中学校から入学した僕にとってこの約一年間は、暁秀という学校を大いに知ることができた一年間でした。そんな中で僕はこの学校の魅力をたくさん感じる事ができました。今後その魅力をさらに強いものにしていき、この学校がみなさん自身にとっても素晴らしい学校になったらと思います。様々な活動にご協力いただきありがとうございました。

中学副会長：山本 柚寿

生徒会メンバーとして、そして副会長として至らない部分も多くあり、期待に応えられたかわかりませんが、みなさんのご協力のおかげで無事今年度生徒会を終えることができました。私はこれからも生徒会に携わり、暁秀の発展のために学生生活を捧げたいと思います。全校生徒のみなさん、生徒会関係者の皆さん、そして先生方、一年間ありがとうございました。

中学会計：藤吉 美宇

私は今年度生徒会に入って、自分的にはあんまり活動できなかった気がしますが、他のメンバーと楽しく活動することができました。一年間ありがとうございました。

中学書記：川口 幸祐

一年間ありがとうございました。そして生徒会メンバーの先輩方、お疲れさまでした。僕は生徒会の中で一番年下で、わかることも少なく、先輩方のお役に立てたかわかりませんが、やれることは精一杯やれたと思っています。生徒会というのは学校を代表する機関なので、最初の集まりはすごく緊張していました。でも先輩方が場を盛り上げてくださり、緊張がほぐれました。面白い話をしてくれたり、わからないことは丁寧に教えてくれたりするにつれて、毎回の集まりが楽しくなりました。この生徒会メンバーで、生徒会の一員として働けたことをとてもうれしく思います。一年間本当にありがとうございました。

高1代表：古島 智史

任期は短かったですけど、募金などの活動を通して自分自身学んだことも多くありました。一学期だけの代打でしたが、ありがとうございました！

高1代表：久保 進太郎

短い期間でしたが、貴重な経験になりました。これからもみんなを引っ張っていきたいと思います。

第一期暁秀生徒会は成功に終わったと言える。その成功は暁秀生の協力があってこそであり、協力無くして生徒会の成功はなかったであろう。選挙権が18歳に引き下げられ、選挙への意識が高まる今だ

からこそ、生徒会の発足は生徒にとっても良い刺激となった。

最後に、生徒会メンバーを始めとする関係者、協力者、そして何より全校生徒のみなさん、本当に一年間ありがとうございました。

(中3・山本)

対談企画**～日々変化し続ける、特異な暁秀～**

意外にも歴史があり、未だ様々な面で変化し続けている暁秀。今回は、新任教師の野田先生と清先生、そして教育実習生の菅沼先生と渡邊先生に、それぞれの視点から見た暁秀の昔からの変化や、他の学校との違い、そして暁秀のこれからなどをテーマに、約一時間に渡って対談して貰った。今回は先生方の意見を様々なカテゴリーに分け、それぞれまとめた。

参加した先生方のプロフィール：



菅沼夏未先生(国語、以下菅沼)

出身：

暁秀高校バイリンガルコース

趣味：ホットヨガ

(写真のポーズはホットヨガの鷲のポーズだとか)



清晏理先生(英語、以下清)

出身：

暁秀中高バイリンガルコース

最近の悩み：

野田先生にいじられること





渡邊佑史先生(保健体育、以下渡邊)

出身:

暁秀中高普通科コース

趣味:

ストリートけん玉



野田秀樹先生(国語、以下野田)

出身:

山梨県

高校生の時から抱いている願望:

「玉木宏になりたい」

規則について:

渡邊:今の生徒は昔よりきちんとマナーを守れている。昔はルールを破る生徒が多かったため、ほぼ毎日身だしなみのチェックが行われていた。

清:昔は規則を破る生徒が多かった分、そのようなチェックなど、生徒を押さえる力が強かったのでは。

服装:

渡邊、清:昔のサマーワンピースは形状がストンとしていて、着ている人が少なかった。

清:最近は、サマーワンピースに絞りができて可愛くなったから、着る人が増えたのではないかな。後、昔は学校指定のバックが無かった！これからは、このような制服の変化も、生徒会が促していけるようになれば良いのかもしれない。

生徒会について:

全員:生徒会ができてよかったと思う！

清:生徒がきちんとマナーを守るようになったからこそ、生徒会が昔に比べて権限を持っているのだと思う。昔は生徒会にそこまでの権限は無かったか

ら、生徒たちが自ら意思表示を出来ることはとても良いことだと思う。(沼津の福祉科のために募金を募っていたのもこの意思表示の一環だといえる。)

清:学校のシステムなどに違和感を感じたらアンケートなどで生徒会に伝えて、生徒会を通して動いてもらう。このような正当な方法を取れば、今の時代に順応した学校づくりが出来ると思う。こんな風に生徒と先生が対等な立場で話し合えるのは良いこと。

生徒と先生の距離について:

菅沼:昔と比べて、相談コーナーを利用したり、生徒と先生の距離が近い印象。

野田:自分が暁秀に初めて来たときも、生徒と先生の距離が近いことに驚いた。だからこそ、先生に対する正しい言葉遣いだとか、問題にすべき部分もあると思う。

渡邊:歳が近い先生だと、特に距離が縮まるのかもしれない。こういう所は、時代と共に変わって来たんだと思う。

暁秀の雰囲気について:

野田:自分が通っていた学校と比べて、暁秀の生徒はみんな穏やかで素直な印象。気候のせいかな?(笑) 深刻なイジメも見受けられない。

清:昔も、多少のいじりはあったものの、深刻なイジメに関する噂などは耳に入らなかった。

菅沼:私が海外から高校に入った時も、クラスメートがすんなりと受け入れてくれ、自然とクラスに馴染むことが出来た。

バイリンガルについて:

渡邊:他のコースからすると、DPなど、バイリンガルのやっていることはいまいよく分からなかった。知らなくて問題は無いかもしれないが、知っていて悪いことでは無いと思う。

清:お互いやっていることが違うから、バイリンガルの大変さが伝わらず、誤解されることも多かった。

清:その他にも、昔に比べて、バイリンガルクラスの担任をする先生の幅が広がっている印象。自分の知っている先生が増えるのは、バイリンガルの生徒にとって、他との距離が縮まる良いきっかけになると思う。

暁秀のこれからについて:

菅沼:生徒会など、変わる道筋は立ってきているので、生徒が意思表示をしていけば、おのずと変わっていけるのだと思う。

野田:この学校に限らず、日本全体として、時代の流れを意識すると、変わらざるを得ない部分が生じてくる。だから、授業の形態などは時代の流れに沿って、自然に変わっていくのではないだろうか。

暁秀に対する考えを様々な様々な視点から伺うことで、暁秀の今までの変化や特異さ、そしてまだこれから変



化出来る部分がこの対談を通して見えてきた。最近の学校の活動でよく耳にする「変化」という言葉。生徒会を中心とした生徒に対する「変化」、学校を中心とした先生方に対する「変化」…。今年は変化の年である戊戌の年（2018年1月号参照）、今後の暁秀がどのように変わっていくのかが非常に楽しみである。そしてこれからより良い方向に変化していく為にも、私たち暁秀生一人ひとりがきちんと学校と向き合い、意思表示をしていくことが必要ではないだろうか。

（高2・宮本、中山）

新任の先生！Nice to meet you！！

今回はパズドラ大好き、化学が専門の伊藤正先生にインタビューをした。

Q1:いつ教師になろうと思ったのですか？

A1:高校の時ですね。進路が見つからなかったときに、先生がとても親身に相談に乗ってくれたんですよ。その先生には本当に感謝しますね。

Q2:教師生活の中で一番楽しいこと、達成感のあることはどんなことですか？

A2:一年目の教師に聞く？それ（笑）。受ける側から教える側になって、皆にわかりやすく授業をしてあげようと努力することに充実感があります。

Q3:「これは誇れる！」という特技はありますか？

A3:料理ですね。大体のものは作れますし、確実に一般男性よりは上手だと思っています。

料理が得意とはうらやましいです。伊藤先生の授業はわかりやすいという評判もよく聞きます。今後もよろしく願いいたします。

（高1・稲葉）

「てるてるぼうずのひとりごと」

「あめあめふれふれ母さんが じゃのめでおむかえうれしいな」

最近この歌をよく思い出す。雨降りの日のウキウキ感が、私の心と合っているのだ。

雨は好きだ。屋根を打つ雨の音が心地よいリズムとなって聞こえてくる。雨の中、カサの裏からそっと手を当てると、いつもとは違う「水」の感触がする。

何より私が好きなのは、雨の後のいつもよりすっきりとした空気、そして澄み渡るきれいな青空だ。だから、梅雨も嫌いではない。まあ確かに、ずーっと雨の日が続くと、少しは憂鬱な気もするけれど。

それにしても「梅雨」とは不思議な言葉だ。だって梅の花が咲くのは早春。季節がちがうではないか？…と思っていたら、どうやらこの季節は梅の実がなる季節らしい。だから「梅雨」。なるほど。

他にも、「毎日雨が降る季節」→「毎雨」→「梅雨」や、「カビが生えて黴菌（ばいきん）が多い時期」→「黴雨」→「梅雨」など、いろいろな説があるようだ。

あーよかった。「黴雨」にならなくて。さすがに「黴菌の雨」だと、憂鬱になる。

ところで、「梅雨」という言葉はもともと中国から伝わってきたのだが、最初は「ばいう」という読みをしていたらしい。

しかし、今は「つゆ」という読みの方が一般的だ。少なくとも私は、友達に向かって「梅雨（ばいう）だねえ」なんて言わない。江戸時代に書かれた「日本歳時記」という書物には、「此の月淫雨ふるこれを梅雨（つゆ）と名づく」という文が出てくる。

この本が出た頃、少なくとも1688年には、「梅雨」は「つゆ」と読まれていたようだ。

では、どうして「梅雨」を「つゆ」と読むのだろう。調べてみたところ、どうやら「露が多くて湿っぽい」という意味の「つゆけし」という古語からきているようだ。確かに梅雨は湿っぽい時期だし、同じ水関連の「露」という言葉ともつながりやすい。

また、さきほど梅雨の季節は梅の季節と紹介したが、梅の実が熟れて「潰れる」時期だ。古語で「潰れる」は「潰ゆ」。

そこから「梅雨」が「つゆ」と読まれるようになった、という説もある。こちらも、「梅雨」という字に合っていてわかりやすい。

と、こんな感じだ。季節にまつわる言葉のトリビア、楽しんでいただけたらだろうか。

それにしても梅雨は長い。今年の梅雨明けはいつだろう。いつもは大体7月中旬だけれど。（この新聞が発行される頃には、終わっちゃってるかなあ）

梅雨が明ければいよいよ夏本番。今から楽しみだ。梅雨という季節は、夏を待つワクワクした気持ちを教えてくれる。

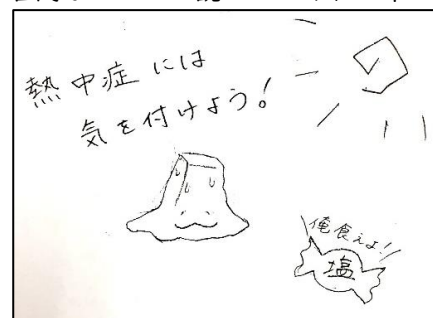
あめあめふれふれ。そしてカラッと晴れた気持ちいい夏が、早くやってきますように。そんな願いを込めて、「てるてるぼうずのひとりごと」

（高1・戸田）

編集後記

広報部の部長の出口隼詩です。昨年度に引き続き、広報部は「暁秀ニュース」の発行を行っていきます。昨年度よりも発行回数を多くしていくのが主な目標です。さらには、生徒会との連携を行い、生徒会および委員会の活動の透明化を行います。勉強だけではない、中学や高校生活の魅力をぜひ「暁秀ニュース」から見つけていただきたいと思います。

勉強の合間などにご一読いただければ幸いです。



（高2・森、中山）

